

図 2. 魚探反応量の大きかったラインにおける魚探画像（エコーグラム）。
赤矢印はスケトウダラ魚群と見られる反応。

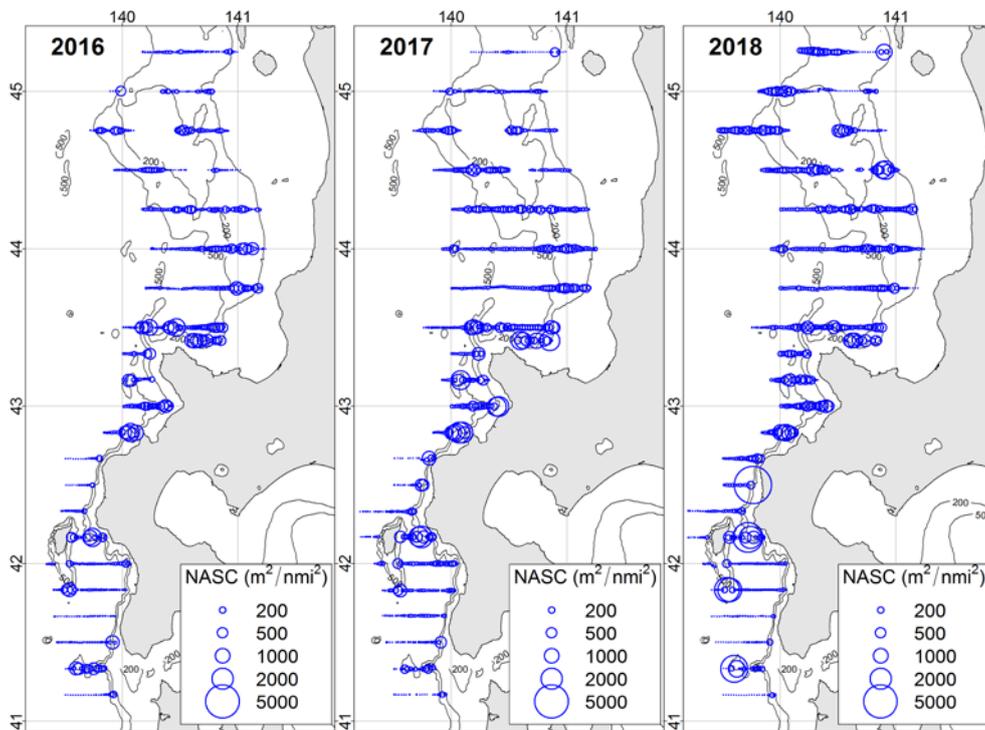


図 3. 魚探反応量 NASC の分布。

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる。

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図4に示します。

武蔵堆西では尾叉長 25 cm 前後の 2 歳魚 (2016 年級), 留萌沖では 20 cm 前後の 1 歳魚 (2017 年級) を主体とした未成魚が多く, そこに 40 cm 台前半の 6 歳魚 (2012 年級) とと思われる成魚が混じる組成となっていました。例年は成魚がおもに分布している積丹沖でも今年度の調査では 2 歳魚が主体でした。一方, 岩内沖, 檜山, 渡島海域では 40 cm 台前半の 6 歳魚 (2012 年級) とと思われる成魚が主体で, 渡島海域では 40 cm 台後半の 8 歳魚 (2010 年級) とと思われる個体も見られました。9 月に北洋丸で実施した調査では武蔵堆周辺で 30 cm 台前半の 3 歳魚 (2015 年級) が多く見られましたが, 本調査でトロールを実施した海域ではあまり見られませんでした。

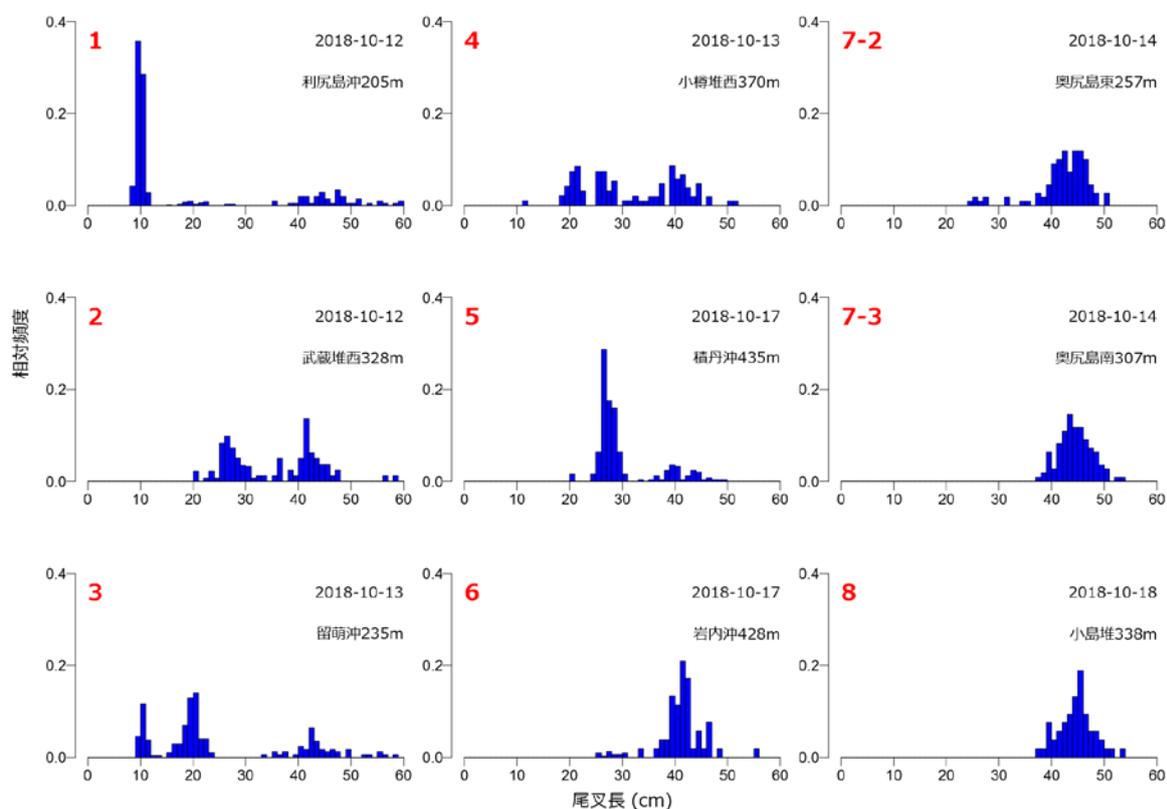


図4. スケトウダラの尾叉長組成 (2018年10月道西日本海).

赤数字は図1のトロール海域番号と対応.